

番号	11	令和7年度公共事業再評価調査				担当課名	河川海岸整備課																																			
事業名	河川改修事業(広域河川改修事業)				事業主体	静岡県																																				
箇所名	にきゅうかせんとえがわ 二級河川巴川				関係市町	静岡市																																				
事業採択年度	平成 21 年度		計画期間	平成 21 年度 ~ 令和 20 年度																																						
用地着手年度	平成 21 年度		工事着手年度	平成 22 年度																																						
再評価理由※	事業採択(河川整備計画の策定又は変更)後5年間が経過した時点で継続中																																									
全体事業費	百万円 59,123	投資状況 (百万円)	~R5年度 43,371	R6年度 1,654	R7年度見込 520	計 45,545																																				
事業概要	(1)事業目的 ・河川整備計画に基づき、時間当たり69mmの降雨規模(年超過確率1/10規模の降雨)による出水に対し、溢水、破堤などによる家屋被害の発生を防止する。また、平成26年10月洪水と同規模の降雨による洪水に対して、浸水被害の発生を軽減させることを目的とする。 (2)事業内容 麻機遊水地: 73 ha 巴川本川: 6,600 m 大谷川放水路: 3,000 m																																									
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・本流域における土地利用の変化は、昭和30年までは21%に過ぎなかった市街地が、沿川の低平地を中心に、交通の発展とともに郊外に向かって開発が進み、令和3年時点で50%が市街地となっており、水害リスクが上昇している。 ・現在までに進めてきた治水対策や流域対策の効果は現れているものの、未だ十分な治水安全度に達しておらず、令和4年度台風第15号により多くの浸水被害が発生した。 ・今後の流域内における市街地の発展を見据え、防災まちづくりの観点から、浸水リスクを軽減し、またはこれ以上増加させない対策を講じていく必要がある。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 7 年度時点) <table border="1"> <thead> <tr> <th>B/C (i=4%)</th><th>参考:B/C (i=2%)</th><th>参考:B/C (i=1%)</th><th>EIRR</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.7</td><td>4.1</td><td>5.2</td><td>12.2%</td></tr> </tbody> </table> ・総便益 (B) 2,346.2 億円 (被害軽減便益: 2,319.7億円、施設の残存価値: 26.51億円) ・総費用 (C) 877.6 億円 (建設費: 771.54億円、維持管理費: 106.08億円) ○見込まれる効果(定性的な効果) - 被災可能性に対する不安の低減効果 - 治水安全度の向上による地価の上昇 - 公共サービスの停止等による波及被害の抑止効果 (3)事業の進捗状況 (令和 7 年度見込み) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th><th>進捗率</th><th colspan="2">内 訳</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">事業費</td><td>77.0%</td><td colspan="2">(45,545 百万円 / 59,123 百万円)</td></tr> <tr> <td rowspan="3">事業量</td><td>麻機遊水地</td><td>100.0%</td><td colspan="2">(73 ha / 73 ha)</td></tr> <tr> <td>巴川本川</td><td>10.6%</td><td colspan="2">(700 m / 6,600 m)</td></tr> <tr> <td>大谷川放水路</td><td>100.0%</td><td colspan="2">(3,000 m / 3,000 m)</td></tr> <tr> <td colspan="2">用地取得</td><td>100.0%</td><td colspan="2">(35 ha / 35 ha)</td></tr> </tbody> </table> 評価 継続が妥当						B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	2.7	4.1	5.2	12.2%	区 分		進捗率	内 訳		事業費		77.0%	(45,545 百万円 / 59,123 百万円)		事業量	麻機遊水地	100.0%	(73 ha / 73 ha)		巴川本川	10.6%	(700 m / 6,600 m)		大谷川放水路	100.0%	(3,000 m / 3,000 m)		用地取得		100.0%	(35 ha / 35 ha)	
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																							
2.7	4.1	5.2	12.2%																																							
区 分		進捗率	内 訳																																							
事業費		77.0%	(45,545 百万円 / 59,123 百万円)																																							
事業量	麻機遊水地	100.0%	(73 ha / 73 ha)																																							
	巴川本川	10.6%	(700 m / 6,600 m)																																							
	大谷川放水路	100.0%	(3,000 m / 3,000 m)																																							
用地取得		100.0%	(35 ha / 35 ha)																																							
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	・麻機遊水地は、令和7年度に整備が完了する見込みである。 ・巴川本川は、河口から港橋までの約700mの河床掘削が完了しており、引き続き、掘削に際して支障となる橋梁の架替を実施していく。橋梁管理者との調整も順調であり、地域住民の期待も大きいことから、今後も順調な進捗が見込める。 評価 継続が妥当																																									
【視点3】 新たなコスト削減・代替案立案等の可能性	・河道掘削に伴う橋梁の架替について、施工時において仮橋を設置せず、周辺の橋梁へ迂回させることについての検討や、橋梁の統廃合の可能性について、道路管理者や地元関係者等と協議を行う。																																									
対応方針(案)	(1)対応方針(案) 本事業を 【 継続 】 する。 (2)理由 本事業は、遊水地整備及び河川改修及び放水路整備等により巴川流域の浸水被害を軽減するものである。 当地域では、近年、激甚化・頻発化する豪雨により、事業の必要性が一層高まっており、さらに事業の投資効果も見込まれ、地元住民の事業への期待も大きく、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。																																									

費用便益比算出説明書

二級河川 巴川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和6年4月)

総括表

総便益 B	[事業を実施しない場合の被害額]－[事業を実施した場合の被害額] ＋[施設の残存価値]	2,346百万円
総費用 C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	878百万円
B／C		2.67

総便益

○治水事業の有無による被害額の差分
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間80年(整備期間30年＋50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値
評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned}
 B &= \Sigma \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n \\
 &= 2,319.70 \text{億円} + 26.51 \text{億円} \\
 &= 2,346.21 \text{億円}
 \end{aligned}$$

※ 被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※ 年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※ 整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

○事業建設費
各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費
各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。
建設費の0.5%/年、評価対象期間:80年(整備期間30年＋50年)

総費用

$$\begin{aligned}
 C &= \Sigma \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\
 &= 771.54 \text{億円} + 106.08 \text{億円} \\
 &= 877.62 \text{億円}
 \end{aligned}$$

1 . 事業箇所位置図

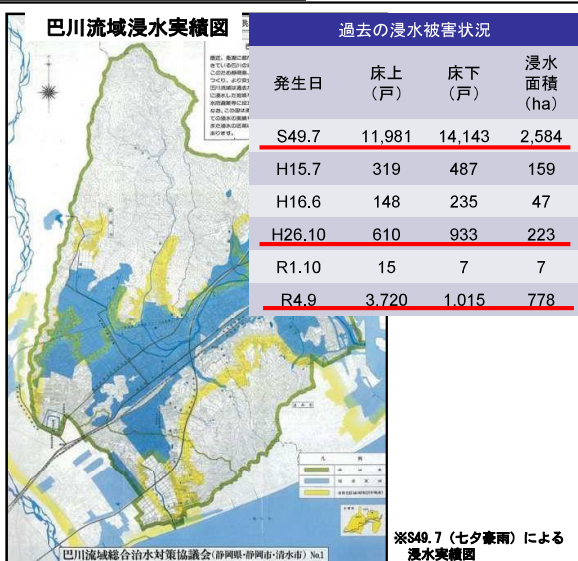


二級河川巴川	
流域面積	約104.8km ²
幹線流路延長	約18.0km



2 . 事業概要

詳細位置図



S49.7 (七夕豪雨)



R4.9 (台風15号)

事業目的

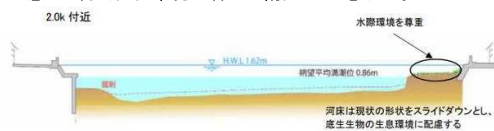
時間当たり69mmの降雨規模(年超過確率1/10規模の降雨)による出水に対して、溢水、破堤などによる家屋被害の発生を防止するとともに、平成26年10月洪水と同規模の降雨による洪水に対して、浸水被害の発生を軽減させることを目的とする。

事業内容

- 計画期間 平成21年～令和20年
- 事業内容
 - 麻機遊水地 : 第1工区整備 22ha } 73ha
 - 第2工区整備 51ha }
 - 巴川本川 : 掘削 6,600m
 - 大谷川放水路 : 護床工 3,000m
 - 全体事業費 591億円

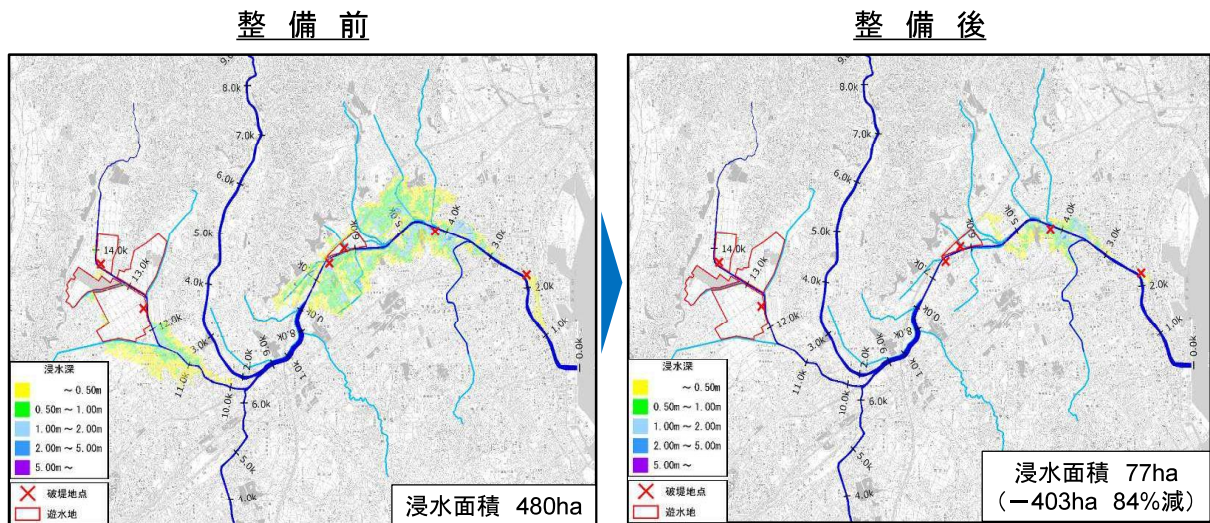
横断図等

巴川本川の河道改修にあたっては、干潟の保全等、水生生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出に配慮する。



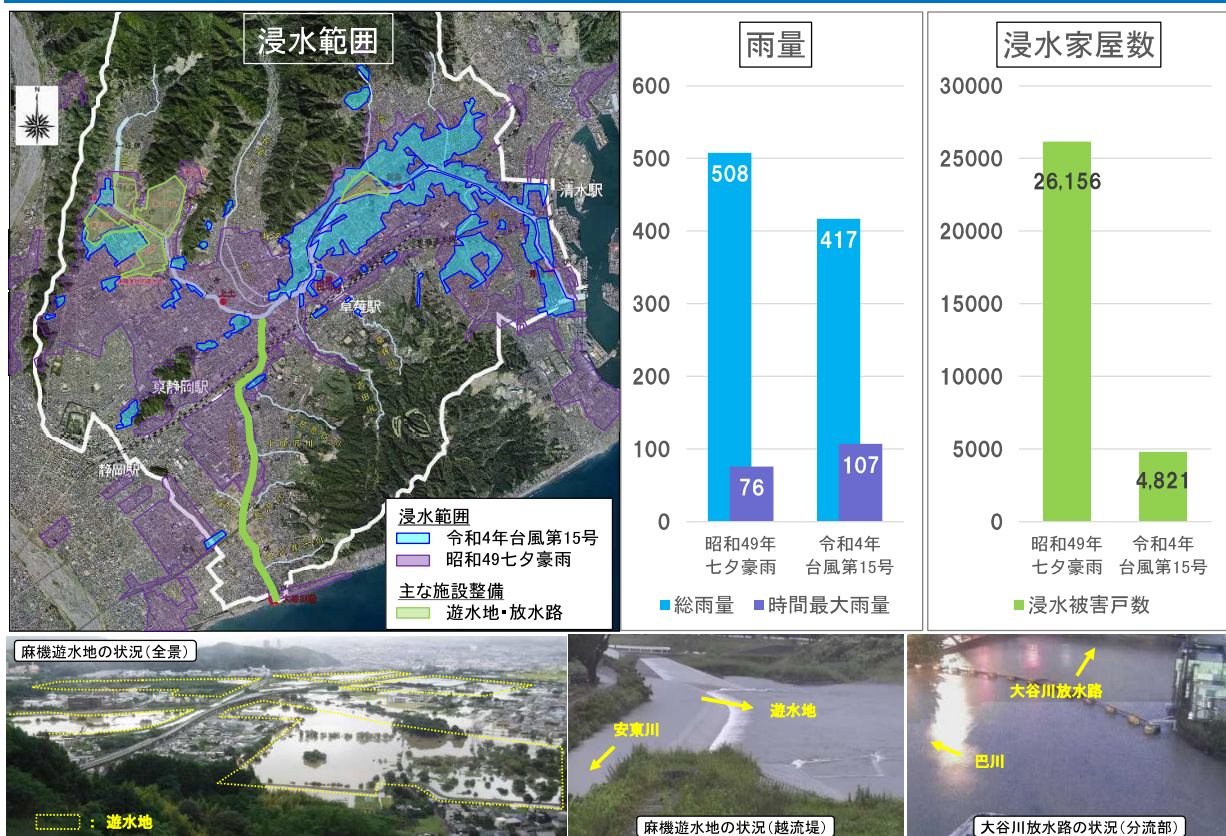
3 . 事業の必要性（事業の効果）

【整備目標規模（年超過確率1/10）洪水による氾濫シミュレーション結果】

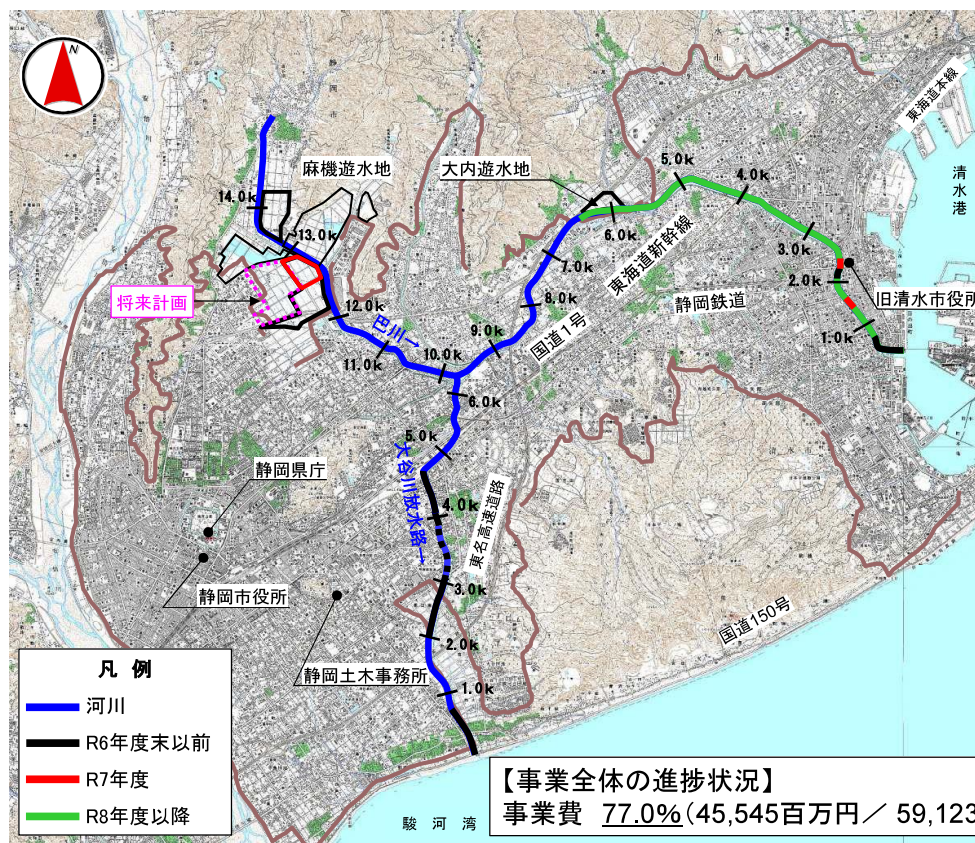


本事業を実施することにより
巴川流域の浸水(常襲)地域における浸水被害が概ね解消される

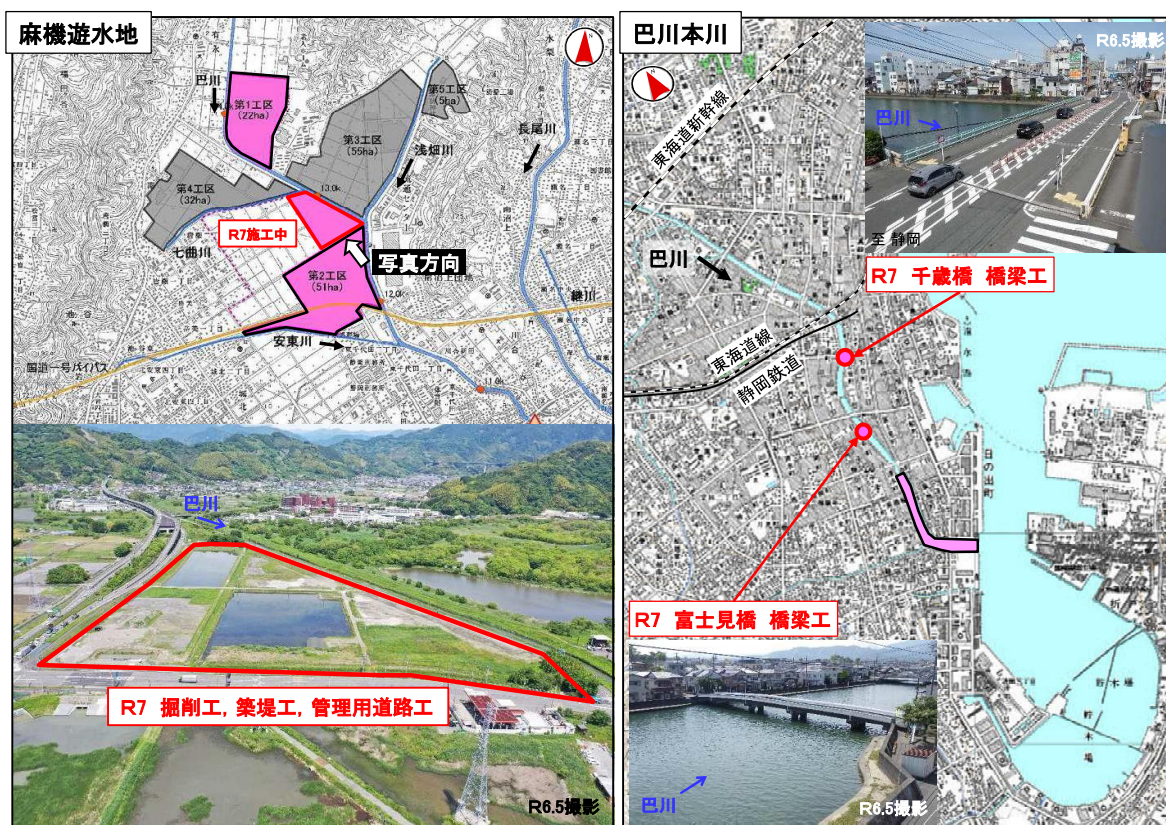
3 . 事業の必要性（事業の効果）



4 . 事業の進捗状況 (令和7年度末見込み)



4 . 事業の進捗状況 (令和7年度末見込み)



5. 前回からの変更点・理由

前回からの変更点・理由

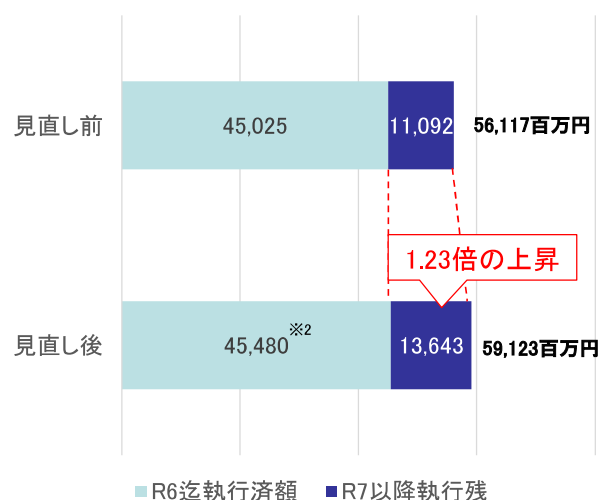
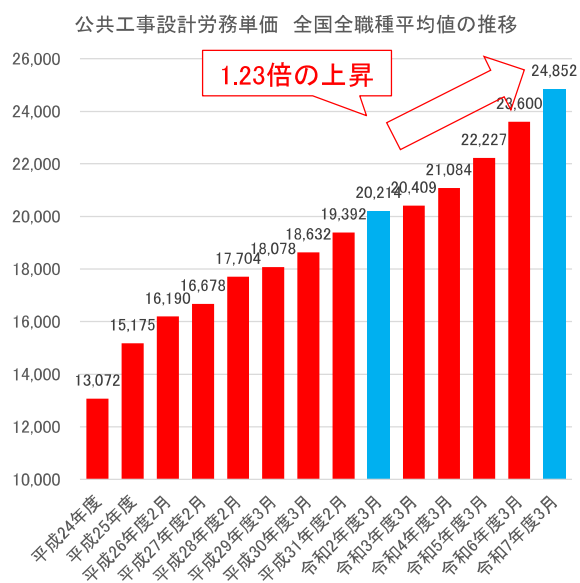
区 分	前回(R3)	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	H21～R20	H21～R20 (±0年)	・なし
②全体事業費	56,117百万円	59,123百万円 (+3,006百万円)	・物価及び労務費の上昇

項目	前回	今回	増減
物価及び労務費の上昇	—	3,006	3,006

5. 前回からの変更点・理由

項目	前回	今回	増減
物価及び労務費の上昇	—	3,006	3,006

前回評価時から物価及び労務単価が上昇したことに伴い、R7以降の残事業費の見直しを行う。



※1 前回評価時の評価基準年度はR2年度

※2 前回評価時(R2)からR6までの物価及び労務費の上昇を含む

6 . 事業の投資効果（費用便益比）

総便益(B) = 2,346.21(億円)

➤被害軽減期待額 2,319.70(億円)

※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 26.51(億円)

総費用(C) = 877.62(億円)

➤建設費(現在価値化) 771.54(億円)

➤維持管理費(現在価値化) 106.08(億円)

※令和6年換算価値

※文献(マニュアル):「治水経済マニュアル(案)」

(国土交通省水管理・国土保全局、R6.4)

費用便益比(B/C) = 2.7

7 . 今後の事業の進捗の見込み

- 麻機遊水地は、令和7年度に整備が完了する見込みである。
- 巴川本川は、河口から港橋までの約700mの河床掘削が完了しており、引き続き、掘削に際して支障となる橋梁の架替を実施していく。橋梁管理者との調整も順調であり、地域住民の期待も大きいことから、今後も順調な進捗が見込める。

8 . 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 河道掘削に伴う橋梁の架替について、施工時において仮橋を設置せず、周辺の橋梁へ迂回させることについての検討や、橋梁の統廃合の可能性について、道路管理者や地元関係者等と協議を行う。

9 . 対応方針（案）

- 近年においても浸水被害が発生しており、浸水被害解消の要望が強く、当該事業に対する期待度は非常に強い。
- 巴川は、静岡市の葵区及び清水区の市街地を貫流する河川であり、事業実施による治水効果は大きい。
- 事業は順調に進捗しており、費用対効果も認められる。



早期の浸水被害解消のため
事業を継続する